

# 平成28年度 校内研究計画

大河原町立大河原中学校

3年計画3年次

## 1 研究主題

『自ら学び、確かな学力を身に付ける生徒の育成』  
～家庭学習とのサイクル形成を図る授業づくりを通して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 今日の課題から

これまでの各種調査から、我が国の生徒について、

- ① 思考力・判断力・表現力等を問う問題，知識・技能を活用する問題に課題
- ② 家庭での学習時間などの学習意欲，学習習慣・生活習慣における課題
- ③ 自分への自信の欠如や将来への不安，体力の低下といった課題

が見られる。このため、知・徳・体のバランスとともに、基礎的・基本的な知識・技能，思考力・判断力・表現力等及び学習意欲を重視し、これらを調和的にはぐくむことが必要であると示されている。

そして、中央教育審議会の答申においては、これらの課題を踏まえ、7つの学習指導要領の改善の方向性が示された。その中でも、本校の生徒においては、以下の3つが特に課題であると考えられる。

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ② 学習意欲の向上や学習習慣の確立
- ③ 豊かな心や健やかな身体の育成のための指導の充実

これらの課題を踏まえ、時代の要請に対応すべく、確かな学力，豊かな心，健やかな身体の調和を重視した「生きる力」をはぐくむことがますます重要となっている。

### (2) 学校教育目標の具現化から

本校では校訓として「自覚・立志・健康」を掲げ、教育目標の一つに「夢と希望の実現に向け、ひたむきに学ぶ生徒」を挙げている。目標をもち、自ら課題を見だし、実現に向けて学び続けることのできる生徒の育成を目指している。

学び続ける生徒の育成に不可欠なのは「わかる・できる」授業の創造である。教科指導力の向上を図ること、授業の内容と家庭学習を効果的に結びつけることで、生徒に確かな学力を身に付けさせ、教育目標を具現化することができるのではないかと考えた。

### (3) 生徒の実態から（平成27年度の調査結果から）

本校は、3つの小学校から生徒が進学してきており、生徒数650名、学級数25学級の大規模校である。生徒は、明るく、部活動や生徒会活動に意欲的に取り組んでいる。また、復興支援委員会を立ち上げて継続的に支援活動を行うなど、ボランティア活動にも積極的である。学習に関しては、5月に行った学習意識調査の結果からは、「国語・数学の授業が分かる生徒」は80%程度、「平日の家庭学習の時間が2時間を超える生徒」の割合は30%程度であるものの、1時間未満の割合も約30%程度になっている。

平成27年度の全国学力・学習状況調査の正答率は、昨年度からは向上が見られるものの、国語・数学ともに全国平均を下回っており、数学Bにおいて全国平均との開きはまだまだ大きい。また、国語や数学に対しての関心・意欲や学習の必要性についても、全国平均を下回っており、家庭学習にかける時間も県平均・全国平均を下回っている。

平成27年度の宮城県学力・学習状況調査では、国語・数学は県平均を超えている。しかし、国語については全国値（参考値）には及ばず、特に活用の思考・判断力に課題があった。また、英語に関しては県平均を下回り、特に書くことや外国語表現の能力が、県平均、全国値との開きが大きい結果であった。

全国及び県の生徒質問紙の結果からは、生徒の規範意識や自尊感情にも課題があることが挙げられる。学力の向上と生活全般における規範意識や自己有用感の高揚は密接に結びついていることから、学習環境の整備とともに、生徒への学習意欲を高める指導・支援が大切になってくると考える。

#### （4）昨年度の研究の実践から

本校では、昨年度もこの研究主題のもとで、国語科、数学科、社会科、理科、英語科の5教科を中心に研究に取り組み、3年計画の2年次として、

視点1 「わかる・できる」授業のための「授業のねらい」の明確化

視点2 「わかる・できる」授業のための「見通しと振り返り」をもたせる授業展開の工夫

視点3 「わかる・できる」授業のための「授業と家庭学習のサイクル」の確立

視点4 「わかる・できる」授業のための「学習習慣・学習環境」の確立

の4つの視点について研究実践を行ってきた。

視点1については、学習意識調査の結果において、「授業の始めに目標が示されている」については肯定的な意見が80%を超えていることから、概ね良好といえる。視点2については、全教科において、本時の目標や学習の流れを明示することで、授業の見通しをもたせるようにしてきた。しかし、11月の学習意識調査においては、「授業の最後に振り返る活動がある」については肯定的な意見が55%程度に留まっており、5月の調査からは5.2ポイント減少している。また、中間公開研究会の授業検討会でも、授業の振り返りや適用問題の時間、内容、取り組ませ方について多くの指摘、意見を頂いた。振り返りの方法や適切な適用問題の設定の仕方について検討していく必要がある。視点3については、授業と家庭学習のサイクル形成は進んできており、その一部については、中間公開研究会で資料としてまとめることができた。また、各学級で宿題確認用のホワイトボードが活用され、各教科の宿題の内容、提出期限の確認が定着してきた。一方で、学習意識調査では、宿題に取り組んでいる割合は残念ながら80%程度となっている。中間公開の検討会やアンケート等で指摘されている通り、全員が取り組んでくるような手立て、なかなか意欲的に取り組むことができずにいる生徒への支援についても検討したい。視点4については、「授業の約束」「家庭学習の約束」「今月の学習目標」など全校で統一して取り組むことができるよう、教室や廊下の掲示を行ってきた。また、「週間課題」「朝学習テスト」「帰りの会学習」などの活動が定着し、取り組むことで「できるようになった」「テストの問題が解けるようになった」と効果を実感している生徒も増えてきている。ただ、様々な取組の定着が進む一方で、意欲的に取り組むことができずにいる生徒も少なくないことが課題である。

以上の取組から、12月の標準学力調査（CRT）では、4月の調査と比較して、2学年、3学年の国語において伸びが見られ、特に3学年の国語では、全国平均値を超えることができた。しかし、数学では全学年で4月の結果から落ち込んでおり、大きな課題となっている。また、宿題を含む家庭

学習の時間も課題である。家庭学習の時間は、高校入試を控えた3学年では伸びが見られたが、1、2年生の家庭学習の時間は減少傾向にあった。さらに、携帯・スマホやゲームの時間は全学年で増加傾向にある。生徒に確かな学力を身に付けさせるためには更なる工夫を重ねていく必要がある。

そこで3年計画の最終年次となる今年度は、研究主題、及び副題は継続し、授業の質の向上と家庭学習とのサイクル形成を更に推し進めることができるよう、研究を進めていきたいと考えた。

このような課題を踏まえ、生徒の学習習慣を確立し、授業と家庭学習とのサイクル形成を図ることで、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、確かな学力を身に付ける生徒の育成を目指していきたい。

### 3 研究主題のとらえ方

#### (1) 「自ら学び」について

「自ら学び」とは、「目標をもち意欲的に学習に取り組む」、「自ら課題を見いだして取り組む」、「夢の実現に向けて計画を立てて学び続ける」と、とらえている。

本校の教育目標の一つに「夢と希望の実現に向け、ひたむきに学ぶ生徒」がある。しかし、本校の全国及び宮城県学力・学習状況調査の結果では、「将来の夢や目標をもっている」、「計画を立てて勉強をしている」、「自分には良いところがあると思う」についてはあまり肯定的ではないなど、自ら計画を立てて努力する姿勢や、自己肯定感は低い傾向がある。

#### (2) 「確かな学力」について

「確かな学力」とは、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「学ぶ意欲の向上」と、押さえている。

文部科学省では「確かな学力」について、知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたもの、としている。本校の生徒の課題としては、基礎的・基本的な知識・技能の習得、学習意欲の向上や学習習慣の確立が挙げられることから、基礎的・基本的な知識・技能の習得と学ぶ意欲の向上を重視して取り組んでいく。

#### (3) 「家庭学習とのサイクル形成」について

「家庭学習とのサイクル形成」とは、「宿題を中心に、より具体的に家庭学習の内容を指示し、授業で確認すること、学習課題として取り上げることで、基礎的・基本的な知識・技能の習得や学習意欲の向上につなげるサイクル形成を意識した授業づくりを行うこと」と、とらえている。

県の学力向上に向けた5つの提言に「家庭学習の時間の確保」が掲げられているように、家庭学習の時間と質の向上を図ることが学力向上につながると考える。しかし、本校の生徒の課題としては、家庭学習の時間や復習の時間が少ないこと、家庭学習で何をすれば良いかわからないと感じていること、などが挙げられる。

#### 4 研究目標

家庭学習とのサイクル形成を取り入れた授業改善を行うことで、生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせる方策を、実践を通して明らかにする。

#### 5 研究仮説

以下のような視点をもって授業改善を行い、授業の質の向上と、適切なサイクル形成によって家庭学習の意欲が高まれば、生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせることができるであろう。

##### 視点1 「わかる・できる」授業のための「授業のねらい」の明確化

- ・学習活動を通して生徒に身に付けさせたい力を明確にした「授業のねらい」を設定、提示することで、生徒に学習活動の目的を意識させる。

##### 視点2 「わかる・できる」授業のための「見通しと振り返り」をもたせる授業展開の工夫

- ・「方法の見通し」「結果の見通し」を強く意識した授業展開を行う。
- ・授業の終末に「振り返る」時間を確実に確保して生徒に学びを実感させるとともに、授業者自身の授業評価としてもとらえ、授業改善に生かす。

##### 視点3 「わかる・できる」授業のための「授業と家庭学習のサイクル」の強化

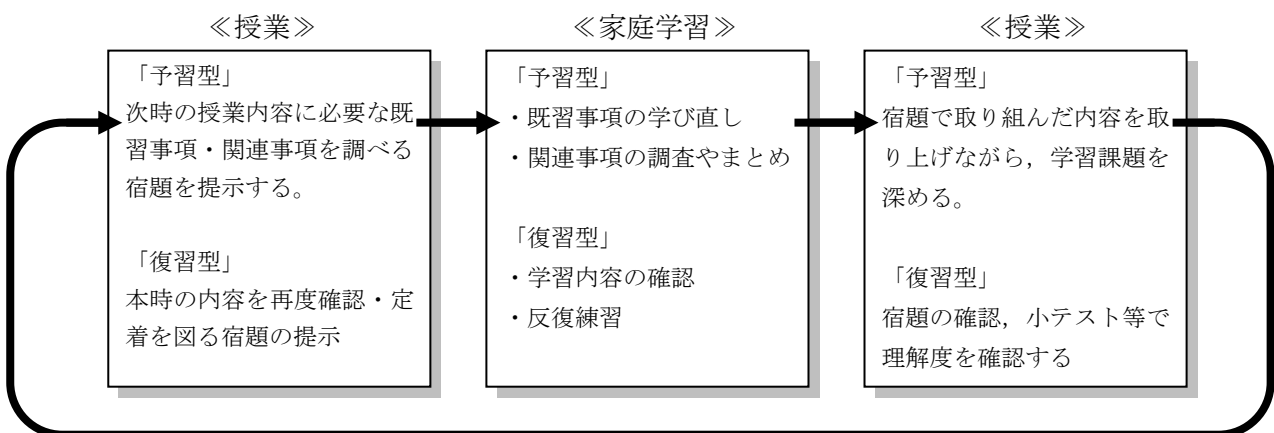
- ・昨年度までに確立してきたサイクルを更に強化し、知識・技能の習得を進め、学習意欲の向上を図る。

##### 視点4 「わかる・できる」授業のための「学習習慣・学習環境」の徹底

- ・安心して意見を交わすことのできる学級・学年の集団作りを行う。
- ・学力向上を意識した生徒会活動を活性化させる。

#### 6 研究の内容と方法

- (1) 家庭学習を生かした「わかる・できる」が実感できる授業づくりの在り方を探る。
- (2) 「授業のねらい」を明確にし、生徒に「見通しと振り返り」をもたせる授業展開を強く意識して各教科部会で検討し、「大中スタンダード」として確立する。(5つの提言③)
- (3) 授業と家庭学習とのサイクル形成を適切に図るため、家庭学習の内容を明確化して指示をする。その際に、各教科や単元の特性に応じた「予習型宿題サイクル」、「復習型宿題サイクル」を意識し、内容を吟味して提示する。(5つの提言⑤, 算数・数学ステップ・アップ5④)



(4) 教科指導力の向上と教師間での指導方法の共有化を、研究授業を通して行う。

① 研究の視点を意識して、7月の指導主事訪問では全教員が研究授業を行う。5教科（国語・数学・社会・理科・英語）については、11月の公開研究会を見越して、教科部会で計画、検討し、模擬授業、先行授業等を行い、教科部会としての授業提供を行う。（算数・数学ステップ・アップ5⑤）

② 教科の所属ごとに参観及び事前、事後検討会を行って指導方法を共有化し、実践を通して授業と家庭学習とのサイクル形成の強化を図る。（算数・数学ステップ・アップ5④及び⑤）

(5) 公開研究授業を年2回実施し、研究の実践、及び検証を行う。授業を行うに当たっては、学習指導案の検討はもちろん、先行授業等も行い、各教科部会で十分に検討を行う。

第1回 7月 指導主事訪問（全教科・全教員）

第2回 11月 公開研究会（国語・数学・社会・理科・英語）

(6) 全国、及び宮城県学力・学習状況調査、標準学力調査（CRT）や学習意識調査等を実施して生徒の実態を把握し、弱点克服の方策の検討や授業改善に役立てる。

(7) 帰りの会で、翌日の予定と宿題を確認する時間を設け、家庭学習の時間の確保と、下校後の時間の過ごし方（おおがわらルール等）を考えさせる。

## 7 本年度の研究の計画

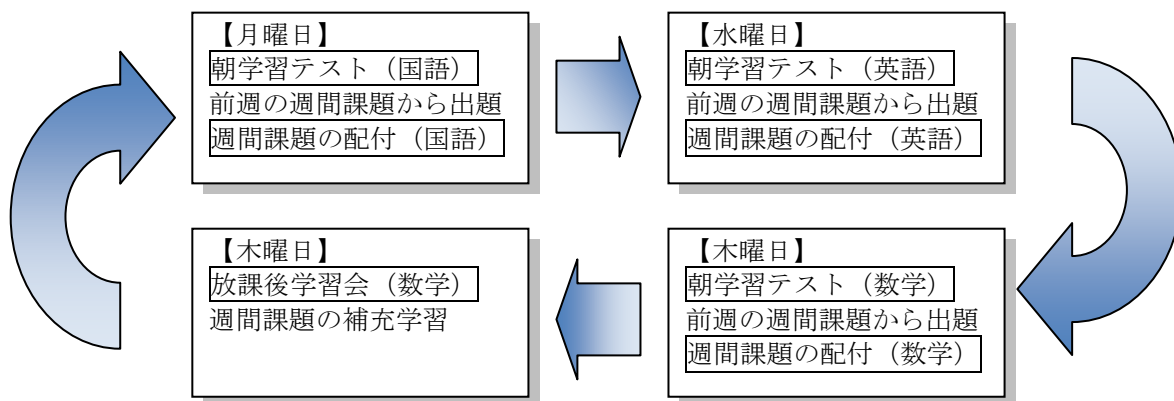
### (1) 年次計画

年次	研究の重点	研究内容
1年次 (平成26年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の指導力の向上のための研究授業</li> <li>・授業と家庭学習のサイクル形成</li> <li>・学習習慣・学習環境の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究全体計画の立案</li> <li>・生徒の学習意識調査、各種学力調査と結果分析</li> <li>・校内研究授業、公開研究会の実施</li> <li>・文献調査、先進校視察</li> <li>・評価と反省、次年度の計画立案</li> </ul>
2年次 (平成27年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業と家庭学習のサイクル定着を目指した授業改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の研究の修正・課題克服への焦点化</li> <li>・標準学力調査（CRT）、学習意識調査 全国、及び県学力・学習状況調査と結果分析</li> <li>・校内研究授業、公開研究会の実施</li> <li>・評価と反省、次年度の計画立案</li> </ul>
3年次 (平成28年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業と家庭学習の効果的なサイクルの手立ての確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次の研究の修正・課題克服への焦点化と成果への裏付け</li> <li>・生徒の学習意識調査、各種学力調査による検証</li> <li>・研究の成果と課題の検証、研究のまとめ</li> </ul>

### (2) 学力向上対策

- ①学力向上
- ・東京書籍 Web ライブラリ（問題集の活用） 国語・数学・理科・英語
  - ・みやぎ問題単元ライブラリー（問題集の活用） 数学
  - ・朝学習テスト（月…国語、水…英語、木…数学（数学オリンピック）15分間）
  - ・N I Eの実践（火の朝学習の時間 15分間）

- ・暗唱読本「寿限無」の活用（金の朝学習の時間 15分間）
- ・週間課題，朝学習テスト，放課後学習会の実施  
 ※週間課題，朝学習テスト，放課後学習会については，下記のようなサイクルで行い，継続して基礎・基本の習得を図る。  
 ※週間課題では，全国学力・学習状況調査過去問題，宮城県学力・学習状況調査の過去問題や類似問題も出題し，思考力・表現力の向上を図る。

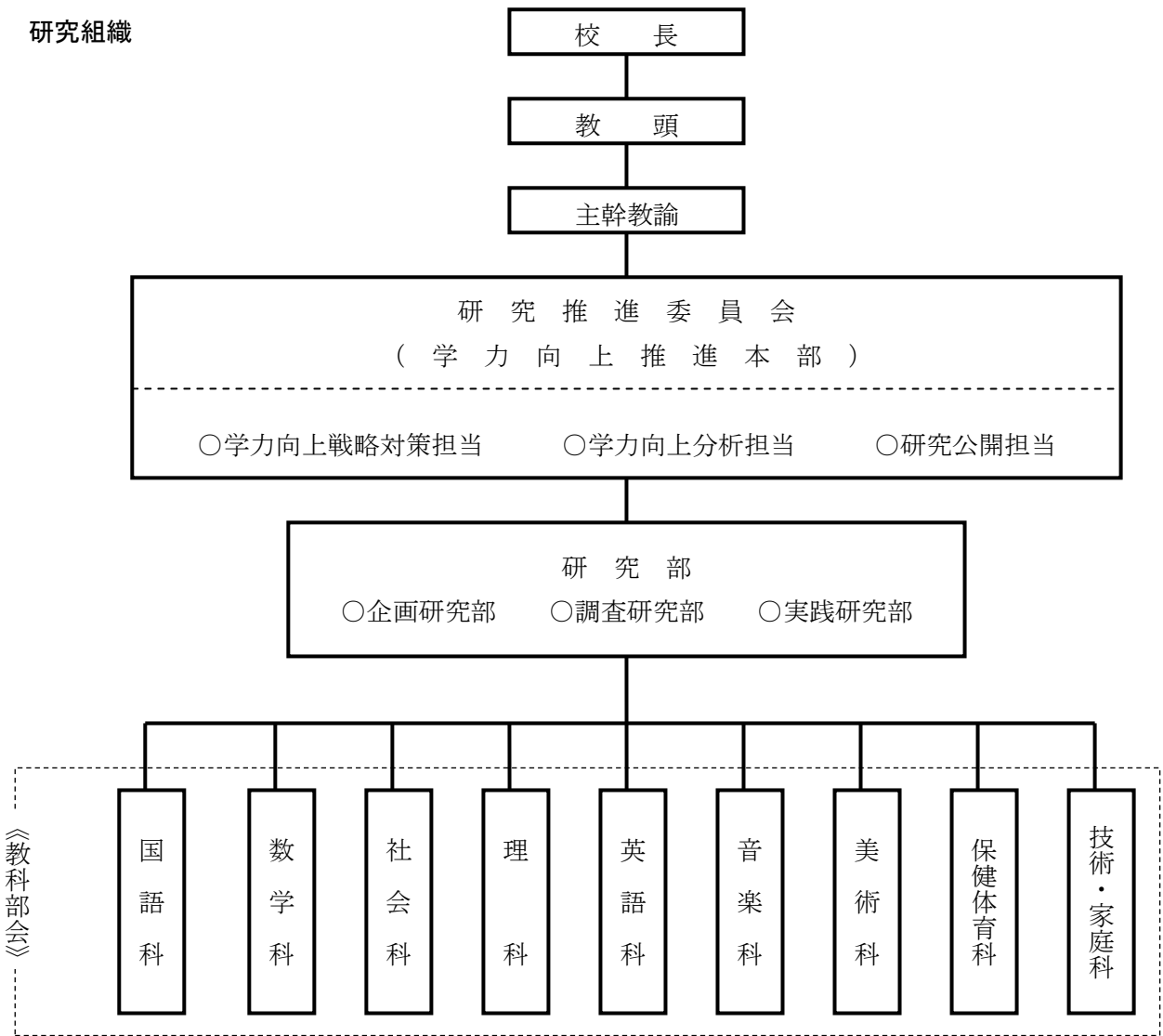


- ・帰りの会学習タイム（10分間の数学・英語・理科・国語の問題演習・解説等）  
 ※数学（月・水・金曜日），理科・英語・国語（火・木曜日，学年裁量）で行う。
  - ・試験前放課後学習会の実施
  - ・生徒会（生活委員会）による携帯・スマホ9時ルール（おおがわらルール），家庭学習時間の調査，呼び掛けなど，生徒の側からの学習習慣・学習環境を整える活動の実施
- ②指導力向上
- ・5教科については，7月，11月の公開研究授業に向けた先行授業を実施して教員相互で参観，検討会を行い，指導力向上を図る。
  - ・授業での「振り返り」の時間を重視した授業展開を検討，実践を積み重ねる。  
 （5つの提言③，算数・数学ステップ・アップ5③）
  - ・タブレットPC，プロジェクタ等，ICT機器を授業で積極的に活用する。
- ③研修会
- ・持続発展教育（ESD）の研修や生徒指導研修を通して，指導力向上，生徒理解に努める。

### （3）研究の評価

- ①4月の標準学力調査（CRT）と12月の標準学力調査（CRT）の結果の推移や全国比との達成度等から，「学力向上」（目標値の達成）を図ることができたか検証する。領域別，観点別の検証に加え，経年変化についても検証する。
- ②5月と11月の学習意識調査の結果を通して，学習に対する意識の改善（学習習慣・授業の理解についての目標値に対する改善），情意面での変容（学習に対する姿勢の変容）が見られたか検証する。
- ③5月と11月の学習意識調査の結果を通して，家庭学習や週間課題等の取組についての意識の改善，変容が見られたか検証する。

8 研究組織



《研究部組織》

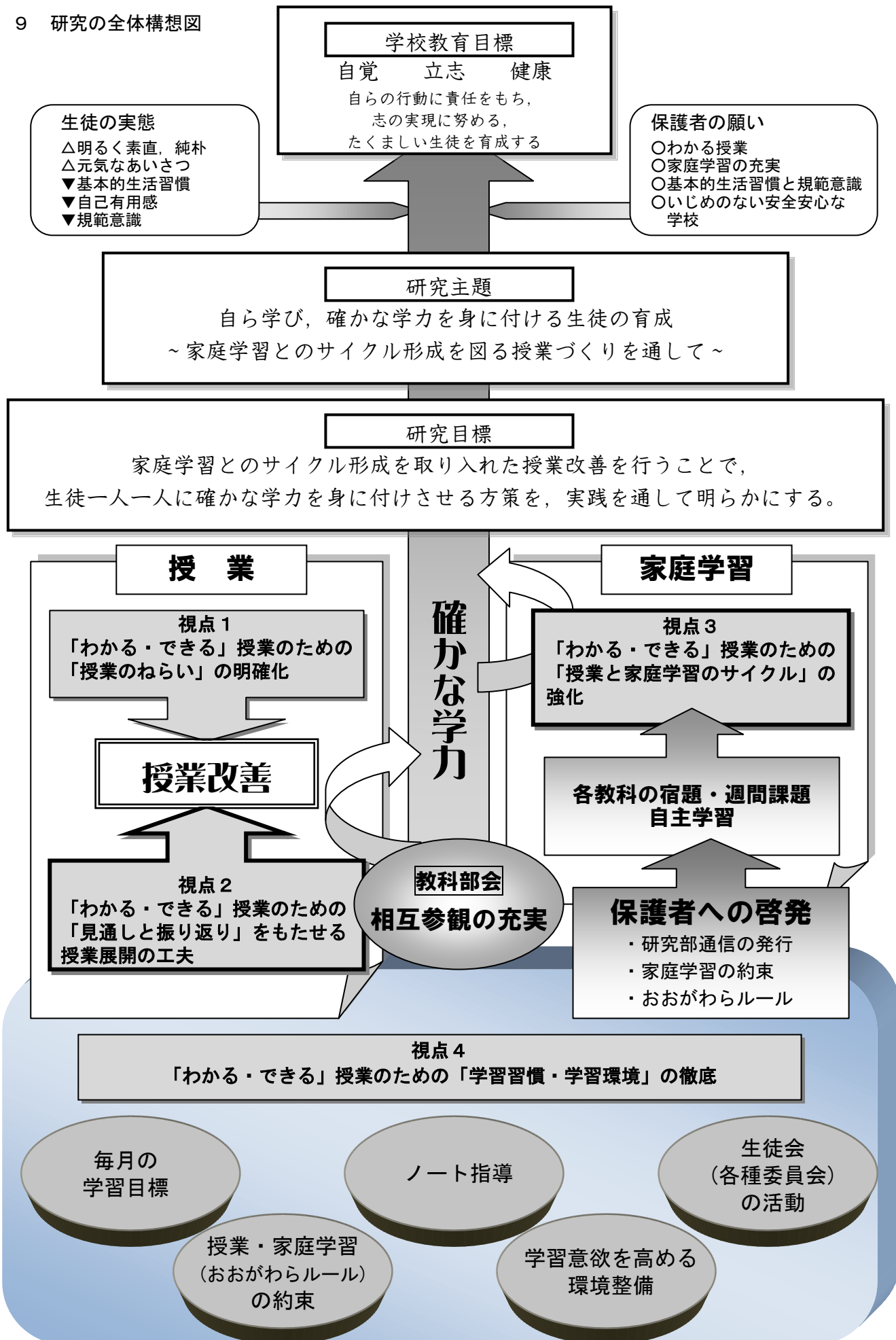
企画研究部	調査研究部	実践研究部
①各種調査結果分析をもとにした方策の検討 ②指導主事訪問，公開研究会に向けた準備 ③家庭学習の手引き作成 ④校内，校外に向けた広報活動	①全国，及び，県学力・学習状況調査結果分析 ②標準学力調査（CRT）結果分析 ③学習意識調査の作成 ④学習意識調査結果分析 ⑤分析結果のまとめ作成	①週間課題，朝学習テスト，帰りの会学習の運営 ②学習意欲を高めるような校内学習環境の整備 ③研究授業の事前，事後検討会の設定，準備 ④研究授業のまとめの蓄積

《教科部会》

・「わかる・できる」授業のための授業改善，授業と家庭学習のサイクル形成を図る授業づくりを検討する。

- ① 1年間を見通した研究授業の計画（授業者，単元等）を行う。
- ② 研究授業に向けた，事前・事後検討会，先行授業等の実施。
- ③ 宿題，小テスト，自己評価などの授業の流れを検討，統一化を図る。
- ④ 宿題，家庭学習の課題の蓄積（ノート，プリント等），まとめ。

9 研究の全体構想図





10 本年度の研究の計画

月	会議等	内 容
4	研究部会（全体）	・校内研究の方向性の確認
	教科部会	・教科経営，研究目標，年間指導計画の確認
	研究推進委員会・職員会議	・校内研究の進め方について，全体で確認
	標準学力調査（CRT）	
	全国学力・学習状況調査 宮城県学力・学習状況調査	
5	教科部会	・各教科での宿題の内容，進め方の確認，実践の開始，指導主事訪問に向けた授業の検討
	実践研究部会	・指導案の書き方，指導主事訪問に向けたスケジュールの確認
	企画研究部会・職員会議	・学習意識調査の作成
	調査研究部会	・学習意識調査の実施（全学級）及び集計
	学習意識調査（第1回）	・5月の最終週に学年ごとに実施
6	調査研究部会	・学習意識調査，標準学力調査（CRT）の結果分析，まとめの作成 →学習意識調査，標準学力調査（CRT）の結果を校内研究だよりで配付，校内で共有。
	企画研究部	・期末試験強化週間の設定 →試験前で部活動中止期間の2日間，帰りの会後に各学級で実施。学習対策委員（生徒）作成の予想問題を活用。
	実践研究部会・教科部会	・指導主事訪問に向けた授業，指導案の検討，準備 ・先行授業の実施と検討会の実施 →教科部会を3回設定し，授業の概要の検討，指導過程の検討，指導案の検討を行う。
7	指導主事訪問 実践研究部会・教科部会 研究部会（全体）	・指導主事訪問 ・指導主事訪問の準備，反省と改善点の検討 ・1学期の実践を受けての研究の方向性の修正，確認
8	教科部会	・2学期の実践に向けた計画，準備
	企画研究部会	・公開研究会に向けたスケジュールの確認
	調査研究部会	・全国，及び，県学力・学習状況調査の結果分析，まとめ
	校内研修	・ICT活用(MIYAGI Style)の活用の仕方
9	教科部会	・公開研究会に向けた授業の検討開始 ・先行授業，模擬授業等の実施と検討会の実施
10	教科部会（5教科）	・公開研究会に向けた指導案の作成，検討
	企画研究部会	・研究紀要の作成，検討 ・先行授業の実施と検討会の実施

月	会議等	内 容
1 1	企画研究部会 実践研究部会・教科部会 研究部会（全体） 公開研究会 調査研究部会 学習意識調査（第2回）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上強化月間の企画，実践</li> <li>・公開研究会に向けた準備，反省と改善点の検討</li> <li>・公開研究会に向けた資料の検討，作成</li> <li>・公開研究会（5教科を公開）</li> <li>・学習意識調査の作成</li> <li>・学習に関する実態調査（全学級）</li> </ul>
1 2	実践研究部会・研究部会 調査研究部会 教科部会 企画研究部会 標準学力調査（CRT）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開研究会の反省と改善点の検討</li> <li>・学習意識調査の結果分析，5月との比較，まとめの作成</li> <li>・3学期の実践に向けた計画，準備</li> <li>・学力向上強化月間の実践，指導主事訪問に向けたスケジュールの確認</li> </ul>
1	調査研究部会・教科部会	・標準学力調査の分析，経年比較，まとめの作成
2	教科部会 研究部会（全体）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のまとめ作成</li> <li>・研究のまとめ作成</li> </ul>
3	研究部会（全体） 研究推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の研究計画の立案と作成</li> <li>・今年度の研究の成果と課題</li> </ul>